



OPEN 2026 CAMPUS



8.1 (土)

開催時間は
ホームページをご確認ください

開催内容(予定)

助産研究科の紹介 / 選抜試験について / 助産研究科学びの発表
助産研究科受験体験談 / 大学院生との交流 / 教員個別相談

「助産師教育における将来ビジョン2021」を 充足する教育

ビジョン①
助産師学生の実習前 / 卒業前の能力を担保する

ビジョン②
助産学担当教員の教育力の向上 / 保証、
および臨地実習指導者の指導力の向上を図る

ビジョン③
助産師教育の遂行や、助産学担当教員・臨地実習指導者の
研修開催に対し、危機管理体制を構築する

ビジョン④
すべての教育課程において、看護基礎教育に積み上げた
修業年限2年以上の助産師教育を推進する



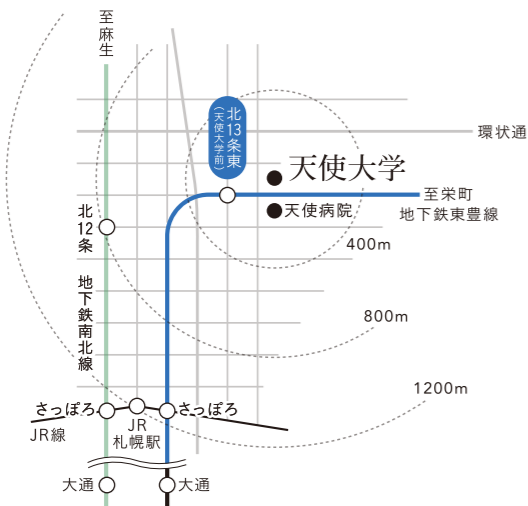
本学では、全国助産師教育協議会が策定した
上記の「将来ビジョン」を満たすカリキュラムを
開設以来編成しており、充実した実習で「理論」と
「実践」をつなぐ教育を行っています。
また、助産専門職大学院として、助産領域の
分野別認証評価「適合」を、2009年・2014年・2019
年・2024年に日本助産評価機構から受けています。

専門職大学院とは

2003年度に創設された大学院制度です。「研究者の養成」に重点が
おかれる従来の大学院とは異なり、専門職大学院では「高度で専門
的な職業能力を持った実務家の養成」に特化した教育を行います。

天使大学では、わが国の母子保健水準に対応する高いレベルの
助産実践に備え、助産教育は大学院で行うこととし、2004年に日本
初の助産専門職大学院である助産研究科を開設しました。

専門職大学院の課程を修了すると授与される学位は専門職学位
とされ、本研究科を修了すると「助産修士(専門職)」が授与されます。



交通アクセス

- [札幌駅から]
■地下鉄東豊線「北13条東(天使大学前)」駅
1番出口より東へ徒歩3分
■地下鉄南北線「北12条」駅
2番出口より東へ徒歩15分
■北口からタクシーで5分
- [苗穂駅から]
■タクシーで8分、徒歩30分
- [新千歳空港から]
■JRで札幌駅まで37分
- [札幌丘珠空港から]
■バスで札幌駅まで25分



看護栄養学部 / 看護学科・栄養学科
大 学 院 / 看護栄養学研究科 看護学専攻
栄養管理学専攻
助産研究科 助産専攻(専門職学位課程)

〒065-0013
北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30
TEL.011-741-1051(代)
FAX.011-741-1077(代)
<https://www.tenshi.ac.jp>



天使大学大学院 助産研究科

Tenshi College Graduate School of Midwifery 2027



質・量ともに充実した実習。体系的に深く学べる講義。
日本で唯一の実践に強い助産師のための専門職大学院です。

助産研究科

助産専攻(専門職学位課程)

助産師を育成する **助産基礎分野**

助産教育者を育成する **助産教育分野**
(募集一時停止)

天使大学大学院助産研究科は、カトリックの教育機関として「愛をとおして真理へ」を建学の理念とし、キリスト教的人間観、価値観および世界観に基づいて、専門職助産師を育成しています。

助産学研究科 ごあいさつ

本研究科は、「愛をとおして真理へ」という天使大学の理念のもと、助産師としての高い専門性と豊かな人間性を育む、日本で唯一の助産学専門職大学院です。

助産師は、妊娠・出産の支援にとどまらず、地域に暮らす母子とその家族、さらにはすべての女性のライフステージを通じた健康を支える、重要な専門職です。医療職として業務独占と開業権を有し、応召義務を伴うという高い職業的責任を負っており、その実践力は生涯にわたる研鑽によって支えられます。

本研究科には、全国各地から志高い学生が集い、助産師としての専門性を高めるため、日々、真摯に学びを深めています。学生同士が互いに尊重し合い、協働的に学ぶ姿が随所に見られるのも、本研究科の大きな特長です。カリキュラムでは、分娩ケアに加え、地域母子保健や女性の健康支援に関する実習を数多く取り入れており、特に全国の助産所で行われる実習では、熟練した開業助産師の指導のもと、質の高い助産ケアの実践や、助産所経営に関する知見を深める貴重な学びを得ています。

近年、少子化の進行や周産期医療体制の変化を背景に、助産師の役割や政策的な位置づけの重要性が改めて注目されています。私たちは専門職大学院として、これからの社会に求められる助産師像を追求し、確かな実践力と高い倫理観を備えた人材の育成に力を注いでいます。

助産学の未来をともに切り拓く皆さまと、ここ札幌の地で学べることを、心より楽しみにしております。

教育課程の特色

|| 少人数制、院生と教員による双方向教育

|| 実践例に基づく教育

|| チューター制度^{*1}とプリセプターシップ^{*2}による教育

専門職者の成長を支援するため、チューター制度とプリセプターシップを導入。チューター制度では専任教員が学習進捗の確認や助言を行い、必要に応じて柔軟に対応。プリセプターシップでは、実務経験豊富な指導者が助産実践を指導し、助産師としての役割形成を支援する。

^{*1}チューター制度：チューターは、学生の学修支援や日常的な相談対応を行う教員であり、入学から修了まで継続して学生を担当する。(担当：専任教員)
^{*2}プリセプターシップ：プリセプターは、実習期間中に、実践の場で指導者として、また助産師の役割モデルとなり、実習中の院生が助産師として成長できるよう、主として臨床に関する相談を受け持つ。(担当：臨床指導者・実習指導教員・臨床専任教員・専任教員)

教育目標

1 女性に優しい自然出産を自律して医療機関や地域で実践するために、正常経過の診断およびケア、正常からの逸脱の判断およびケアができる能力の育成

2 科学的根拠の明らかにされている手段を、ケアの質の向上に応用する力の育成

3 助産管理並びに助産師教育の仕組みの理解、助産チーム及び多職種との連携・調整能力の育成

4 子育て支援について助産師の役割を明確化し、具体的な援助が行える。また、子育てに関わる他領域の専門家の役割を理解し、ネットワークづくりができる基礎的能力の育成

5 性と生殖に関する倫理をふまえ、思春期を中心とした性教育プログラムを開発し、性の健康相談ができる基礎的能力の育成

6 ライフステージ各期の女性のリプロダクティブ・ヘルスの増進を図るために、相談、教育、援助活動ができる基礎的能力の育成

7 地域母子保健活動を多職種と連携・協働しながら主体的に実践できる基礎的能力、並びに政策化のプロセスを理解できる基礎的能力の育成

8 国内外の母子保健活動を理解し、国際的な視野をもって発展途上国での助産活動に貢献する基礎的能力の育成

9 助産教育分野 優れた助産師を育成するために、教育機関ならびに臨床現場において、助産師を目指す学習者に対して、以下の項目について基本的理解を醸成させ、教育・指導できる能力の育成

- ① 助産・看護における教育課程の編成・実施に関する計画の立案
- ② 教授・学習の理論を踏まえた教授学修法の展開
- ③ 評価理論を踏まえた学習目標の達成の評価
- ④ 教育機関の運営・評価についての基本的理解
- ⑤ 理論に基づく学習を実践に向けて統合できる教育・指導
- ⑥ 変動する社会のニーズに合わせた教育変革の推進

教員の紹介はこちら



生まれるいのちを支える仕事。

女性の生涯に寄り添う仕事。

助産基礎分野

助産師の資格を取得すること、および助産の専門職業人に必要な、高度な助産実践の能力を修得するコースです。
看護師の資格を持つ方(または取得見込みの方)が対象です。

〈修業年限〉2年 〈学位〉助産修士(専門職)
〈入学定員〉30名 〈取得資格〉助産師国家試験受験資格
〈修了に要する単位〉57単位

5つの特長

1

助産所を含む、計20単位の实習

2年間で「20単位」の学外実習が用意されています。1年次の病院実習では専任教員に加え、実習指導教員を実習の場に配置。実習施設ごとに複数の教員がサポートし、実習時の宿泊費の補助なども行っています。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則(以下、指定規則)で「11単位」の「助産学実習」を、助産研究科では「20単位」で履修します。出産期(分娩介助)だけではなく、妊婦に対する妊婦健康診査、保健相談の妊娠期ケア、産褥新生児ケアについても、質・量ともに充実した実習を行うことができます。

2

助産師教育の世界基準(18か月以上)を満たした、実践能力の育成を重視した2年の教育課程

国際助産師連盟(ICM)は、2011年の南アフリカ大会において、「助産師教育の世界基準」として看護教育修了後の助産師基礎教育の期間を「18か月以上」とし、「実践能力」を重視することを採択しました。助産研究科の修業年限は「2年間(24か月)」。

また、専門職大学院として「実践能力を重視」したカリキュラムを組み、この世界基準を十分満たしていると言えます。

3

2年課程にしかできない、助産を深く丁寧に学ぶということ

指定規則では「31単位」を修得すれば助産師国家試験の受験資格が得られますが、助産研究科はその約2倍の「57単位」を修了要件としています。単位数が多い理由は、従来「助産学概論」に一括されていた「倫理・国際・教育」といったテーマを「助産哲学・倫理」「国際助産学」「助産師教育論」としてそれぞれ深く学ぶためです。1年間の助産師教育課程では少ない時間で行っている内容を、助産研究科では丁寧に深く学修します。

4

先輩、院生にいつでも相談できる教育環境

助産研究科は、日本で唯一の「助産師養成のための専門職大学院」であると同時に、日本で唯一の「助産教育者のための養成機関」でもあります。「助産基礎分野」には、全国各地から助産師のエキスパートを目指す学生が集まり、「助産教育分野」には病院などの第一線で活躍してきた助産師が入学します。「助産基礎分野」の院生にとってそんな経験豊富な助産教育分野の院生は、「助産の現場」のことをいつでも聞くことができる存在であり、他にはない魅力です。また、2年課程である本研究科は、1年次の時は「先輩」がいて、実習や学習方法について気軽に相談できるのも心強いところです。

5

関心の強い分野に、一步踏み出す

女性の生涯を通じた性と生殖の健康支援の担い手としての助産師の役割を学ぶため、2年次に「発展・展開科目」があり、学生は「子育て支援」「性教育」「ウィメンズヘルス」「国際助産」の4つのテーマから選択履修します。

実習の取り扱い事例数

内容	2025年度修了生平均
保健指導	6例
妊婦健診	43例
出産期ケア	10例
産褥・新生児期の母子ケア	12例

発展・展開科目

女性を知り、母を知り、いのちを知る。助産師という仕事の奥深さに触れる学びの場です。2年次に4つのテーマから1つを選択します。

子育て支援 ～みんな集まれ!キラキラランド～

子育てサロンを通して、子育て支援の実践を学びました。

5名の大学院2年生が「みんな集まれ!キラキラランド」と題して子育てサロンを行いました。参加者は9か月児と3歳児で、2組5名のご家族でした。遊び、交流、リラクセスを目的として、体操、保護者同士の交流、手形アートを行いました。

月齢や年齢に応じた体操では、親子が触れ合いながら身体を動かす時間を設けました。それぞれの発達段階に合わせた関わりを意識して、子育て支援の実践を学びました。

手形アートで、保護者の方々からは、「子どもの成長を形として残すことができた」、「楽しい時間を過ごすことができた」と感想をいただきました。子どもたちからは、「楽しかった」「また参加したい」との声が聞かれ、交流の場を展開することの必要性を実感しました。今後、助産師としての育児支援に活かしたい思いと専門職者としての自覚が高まりました。



性教育 ～いのちと性の授業実践～

「～ステキなあなたになろう～」をテーマに性教育授業を行いました。

中学生・高校生への性教育の授業を、企画から実践まで行っています。授業を受ける生徒さんたちに事前アンケートを行い、その結果から授業内容を考え、グループワークや演習を取り入れた授業を実施しました。とても和やかな雰囲気の中で生徒さんたちは楽しく学び、「将来のためになったし、楽しかった」「自分自身についてよく知ることができた」など、多くの感想をいただきました。この授業を通して、包括的性教育の必要性を実感し、助産師としてのいのちと性にどのように関わっていくのか、考えを深めています。



国際助産 ～海外での助産体験～

イギリス現地でお産や助産師の活動について学びました。

海外のお産、女性の健康問題や母子保健活動の状況、国際機関の関わりや日本の国際援助について学びます。

2018年度は、マダガスカルアベマリア産院、2019年度は、ベトナム・ハノイで実習をしました。その後、コロナウイルス感染症のため海外へ行けませんでした。2023年度はニュージーランド、2024・2025年度はイギリスで実習を行うことができました。出産施設・大学の見学、助産師・助産学生との交流で、日本の助産について英語でプレゼンテーションをしました。また、助産師の妊婦・母子への家庭訪問に同行し、助産師の実践を体験しました。日本との違いを知り、助産について考える機会となっています。



ウィメンズヘルス ～女性の健康とは?～

女性が生涯で直面するさまざまな性と心の問題について、幅広く学びます。不妊治療、DV、思春期や更年期特有のメンタルヘルスなど、学びながら理解を深めます。

婦人科外来の演習では、思春期から老年期までの対象者さんの診察につくことで、ライフステージの身体的・心理的特徴を学習します。

年次教育計画 (2026年度予定)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	入学式・オリエンテーション	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	補講・試験期間	夏期休業	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習
2年次	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	学内学習	補講・試験期間	夏期休業	学内学習(発展・展開科目)	学内学習(発展・展開科目)	学内学習(発展・展開科目)	学内学習(発展・展開科目)	学内学習(発展・展開科目)

実習科目

専門職大学院ならではの充実した実習内容。豊富な臨床経験と、それをフィードバックする学びの場が自律した助産師を育てます。

1年次前期(6単位)

マタニティサイクル助産ケア基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

基礎実習で、助産の基礎をしっかり身に付けます。

妊娠期、出産期、産褥・新生児期に分けて実習を行います。対象をよく理解した上で、それぞれの期に応じて必要な情報を提供する「保健相談」を計画、実施します。また、分娩介助や褥婦と新生児のケアを行い、助産における知識と技術の基本を学びます。

学内カンファレンスを行い、学びを深めます。

妊産褥婦のケアを立案し、実践する傍ら、学内カンファレンスを行います。それぞれの事例を持ちよって知識や体験を共有し、ディスカッションしながら学びを深めます。

2年次前期(6単位)

マタニティサイクル独立助産実習

開業助産所で「自然なお産」を学びます。

助産所の助産師の持つ卓越した助産技術をはじめ、妊婦さんと深く関わりながら「自然なお産」について実践的に学びます。妊娠から出産、産褥までを連続したプロセスとしてとらえ、身体の自然な力や個性を大切に助産ケアを学ぶ実習です。助産ケアでは、育児期にあるお母さんとの関わりの中で助産師のケアの大切さを知ることができます。

6週間泊まり込むことで「助産所のリアル」が見えてきます。

優れた観察力が必要となる助産所での仕事を間近で見て、助産師の独立性、自律性、専門職としての倫理的責任などについて考察します。開業助産所の管理・運営・経営、さらに地域貢献にいたるまで、総合的に学びます。

実習施設(2026年度)

病院

- 天使病院 (札幌市)
- 市立札幌病院 (札幌市)
- 札幌東豊病院 (札幌市)
- 手稲溪仁会病院 (札幌市)
- 札幌白石産科婦人科病院 (札幌市)
- 産科・婦人科 札幌みらいクリニック (札幌市)
- エナレディースクリニック (札幌市)
- マミーズクリニックちとせ (千歳市)
- 帯広病院 (帯広市)
- 森産科婦人科病院 (旭川市)
- 中村記念愛成病院 (北見市)

助産院

- 山本助産院 (神奈川県)
- みやした助産院 (神奈川県)
- さくらバス (神奈川県)
- とわ助産院 (神奈川県)
- バースあおば (神奈川県)
- 稲田助産院 (神奈川県)
- 助産院エ・ク・ボ (札幌市)
- ぼっこ助産院 (香川県)
- 岸本助産院 (大阪府)

その他

- 千歳市総合保健センター (千歳市)
- こども家庭センター (岩見沢市)
- えにわっこ応援センター (恵庭市)
- 北広島市保健センター (北広島市)
- 美幌市保健センター (美幌市)
- 江別市保健センター (江別市)

修了生インタビュー

圧倒的に豊富な実習。
「母と子の力を引き出す」
助産師像が今も目標です。



日本赤十字医療センター勤務(助産師)
助産研究科 助産基礎分野 2018年3月修了

愛知の看護大学時代に自然分娩を見学する機会があり、その時の「子が生まれる瞬間の感動」が忘れられず、助産師を目指すことにしました。天使大学の近藤先生のもとで学ぶことを教授から勧められ、多くの実習が組まれている恵まれた環境だと知り、進学を決めました。助産研究科の2年間は、助産についてとことん考え、学べる環境でした。基礎をしっかりと身に付けることももちろん、実習が豊富で、あれほど長い時間、直接お母さんと赤ちゃんを見て、聞いて、触れる機会がある養成機関は他にないと思います。実際に働いてみると、講義で学んだ知識や技術を、長い実習期間をとおして繰り返し実践と結び付けられたことが一番役立っていると実感できました。特に助産院実習において、「女性自身が持つ本来の力を引き出す」助産ケアや「自然なお産」を学べたことは、自分自身の助産師としての軸を持つことに繋がり、「母と子の力を引き出す助産師」になりたいという目標、その視点は今でもぶれていません。また、特別講師の方々の貴重な講義では、教壇に立つだけでオーラを放ち、人として素晴らしい先生方が多くて感動しました。自分も将来、そういう先生方のような助産師になりたいと思いました。

発展・展開科目では「国際助産」を選択し、特別総合課題研究では「分娩時の痛み」について研究しました。このように興味がある分野をとことん追究できる点も専門職大学院で学ぶ大きな意義であり、その時に培った興味・関心が仕事を続けていく糧になっていると感じます。就職先は、本来の母子の力を引き出す助産ができそうな、希望に近い病院を選択しました。新卒で入職し、産後病棟で3年間、産後の母体の回復と帝王切開術後の管理、母乳育児のケア、新生児の観察、育児スタートのサポートなどを実施しました。それから妊娠病棟で半年間、切迫早産や満期の前期破水、双胎、悪阻などの妊婦さんの管理・ケアを学びました。その後はMFICU(母体胎児集中治療室)・分娩室に所属し、精密な管理が必要な妊産婦さんたちをチームで担当しています。すべての部署を経験させてもらった今は、改めて妊娠、分娩、産後・新生児期を線とらえてケアすることの楽しさを感じています。自分の知識や技術、判断とそれに伴う予測力が、母子とその家族に及ぼす影響の大きさを日々実感しています。すべてにやりがいを感じますが、出産前からの赤ちゃんの成長と一緒に喜んだり、お母さんが懸命に産み、生まれたばかりの赤ちゃんを笑顔で抱く瞬間や疲れていても愛おしそうに抱く姿を見たりする時はいつも、助産師で良かったと思います。

就職先(2025年度)

北海道	関東
<ul style="list-style-type: none">北海道大学病院江別市立病院名寄市立総合病院手稲溪仁会病院札幌徳洲会病院森産科婦人科病院	<ul style="list-style-type: none">札幌東豊病院医療法人王子総合病院札幌白石産科婦人科病院順天堂大学医学部附属浦安病院(千葉県)東京女子医科大学附属足立医療センター(東京都)東京女子医科大学病院(東京都)横浜市立大学附属 市民総合医療センター(神奈川県)愛和病院(埼玉県)公益社団法人地域振興協会 東京北医療センター(東京都)

各地で活躍する修了生が
“天使だからこそ学べたこと”を語ってくれました。

産む力を尊重すること、
心に寄り添うこと、
助け合うことを学修。



社会医療法人母恋
天使病院勤務(助産師)
助産研究科 助産基礎分野 2022年3月修了

高3の頃、不妊治療や流産で悩む身内に対して何もできなかったという無力感を味わい、そういう女性をサポートできる専門職が助産師だと知って、目指そうと考えるようになりました。2年間かけて助産をじっくり学び、豊富な実習でたくさんの経験を積むことができると思い、天使大学を卒業後にそのまま大学院へ進学しました。「2年間」は学ぶ時間が多いという大変さはもちろんありますが、その分、患者さんや自分自身と向き合う時間も多く、必ず助産師としてのスキルアップにつながります。また、座学ではグループワークも豊富で、同期と助け合いながら勉強したことや、実習を振り返る事例発表でみんなが実践したケアに触れ、刺激をもらったことを覚えています。そのように協力する力、コミュニケーション力も身に付くため、就職後のチーム医療にも対応しやすくなると思います。

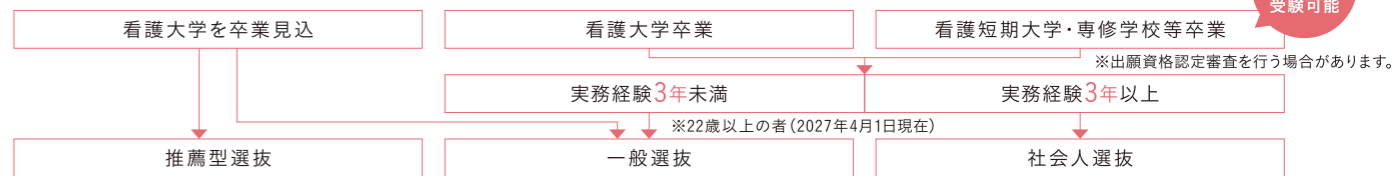
勤務先の天使病院では、看護学科でも助産研究科でも何度か実習を行い、親身な学生指導や雰囲気の良い、目標にしたい先輩助産師がいることに魅力を感じて入職しました。1年目で妊娠期、分娩期、産褥期の各チームを経験し、プリセプターを中心に先輩方から手厚く指導していただき、自立して日勤・夜勤業務ができるようになりました。3年目には後輩指導や外来業務も担当し、現在は外来と病棟間の連携や、妊娠初期から産後1か月健診までの母子とその家族が安全に育児できる環境かどうかを見守り、必要時は地域につなぐ役割を担っています。助産研究科の学びで特に役立っていると感じるのは、6週間泊まり込みで行った開業助産所での実習です。「自然なお産」を間近で見て、5例の出産介助をとおして「女性の産む力」を引き出すケアについて学ぶことができました。出産の神秘、赤ちゃんの生命力にも感動しました。勤務する病院は地域周産期母子センターとしてハイリスク妊婦に対応する体制が整い、医療的介入を要する分娩も多いのですが、助産所での学びを生かし、「女性の産む力」をしっかりと引き出すケアを実践しています。また、1か月健診の後の子育てについても、私はまだ知識不足な部分が多いと感じているので、今後はもっと産後ケアの勉強も深めていきたいと考えています。

今では、分娩介助や授乳ケアなどの助産業務を自立してできるようになり、患者さんから感謝の言葉をかけてもらった時には大きな喜びがあります。おっぱいが張っていたお母さんに乳房マッサージを行い、「神様みたい」と言われた時はうれしかったです。一方で死産といった悲しみもありますが、「じっくりと話を聞いてもらえてよかった」と感謝されることもあり、傾聴の姿勢、心に寄り添うということを大切にしています。出産という女性にとって大きなイベントの瞬間に携わらせていただく職業であること、そこに何よりのやりがいを感じています。

2027年度 助産基礎分野選抜概要

〈入学定員〉30名(女性) 〈修業年限〉2年 〈学位〉助産修士(専門職) 〈取得資格〉助産師国家試験受験資格

[出願資格と受験方法]



[選抜概要]

選抜種別	推薦型選抜	一般選抜	社会人選抜
募集人数	10名	20名	
選抜内容	1. 小論文試験(60分) 2. 個人面接試験	1. 小論文試験(60分) 2. 学力試験(60分)「専門科目(母性看護学領域)」 3. 個人面接試験	1. 小論文試験(60分) 2. 個人面接試験

[選抜日程]

選抜種別	推薦型選抜・社会人選抜	一般選抜
出願期間	2026年8月10日(月)~8月21日(金)必着	2026年9月24日(木)~10月2日(金)必着
選抜日	2026年9月5日(土)	
合格発表日	2026年9月16日(水)午前10時	2026年10月26日(月)午前10時

※日程等変更する場合があります。入学手続き(入学納付金)締切日までの手続き者が受入人数に達しない場合、2次募集を行うことがあります。詳細は本学WEBサイトをご確認ください。

納入金(2027年度)

種別	内訳	入学手続時	後期	年額合計
学納金	入学金※1	150,000円	—	150,000円
	授業料	600,000円	600,000円	1,200,000円
	施設設備資金	100,000円	100,000円	200,000円
	実験実習料	50,000円	50,000円	100,000円
	小計	900,000円	750,000円	1,650,000円
委託徴収費	災害傷害保険料※3	7,000円	—	7,000円
	同窓会費※1	—	50,000円	50,000円
	小計	7,000円	50,000円	57,000円
合計※2		907,000円	800,000円	1,707,000円

※1:初年度の納入額です。天使大学・天使女子短期大学卒業生は、入学金・同窓会費(後期納入分)を免除します。※2:学納金・委託徴収費の年額合計を一括納入することができます。※3:災害傷害保険(日本看護学校協議会共済会の共済制度「Will」)への加入を義務付けています。【注】学期を通して休学する場合は学期ごとに在籍料50,000円を納入していただきます。

奨学金(2026年度)

奨学金	月額/年額	金額	備考
日本学生支援機構奨学金	第一種	月額	無利子貸与
	第二種	月額	有利子貸与(利率は年3%以内)
天使大学同窓会給付奨学金	年額	100,000円	経済的に困難があり、成績優秀な者に対し給付。在学中1回限り
天使大学貸与奨学金	月額	30,000円または50,000円	無利子貸与 経済的に修学が困難な者に対し貸与
日本助産師会奨学金	年額	600,000円	無利子貸与
北海道看護職員養成確保修学資金	月額	36,000円	無利子貸与 道内の病院その他の施設において助産師として貸付年数の1.5倍(端数切り上げ)勤務した場合返還免除

※上記の他にも、地方自治体や病院、各種団体などの奨学金があります。各自で出身地の都道府県や市町村の教育委員会、病院などにお問い合わせください。※奨学金に関する詳細は、学務課(学生担当)までお問い合わせください。Tel:011-792-9204。